



N1 Grid Service Provisioning System 5.0 リリースノート

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-1674-10
2004 年 12 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、N1 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されず、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Release Notes

Part No: 817-6505-10

Revision A



050127@10536



目次

はじめに 5

1 N1 Grid Service Provisioning System 5.0 の問題 9

インストールに関する情報 9

サポートされていないオペレーティングシステムでも Master Server のインストールを実施できる (6204115) 9

ローカルゾーンが設定された Solaris 10 サーバーでは CLI Client のインストールが失敗することがある (6209280) 9

アンインストールの問題点 10

Windows Master Server の side-by-side アップグレード後、アンインストールが失敗する (6188943) 10

アンインストールウィンドウに N1 Service Provisioning System 4.1 が表示される (6189043) 10

ローカルゾーンが設定された Solaris 10 サーバーでは CLI Client のアンインストールが失敗する (6194834) 11

実行時の問題 11

「Check In Current」処理で、この処理をサポートしないコンポーネントについてのエラーが報告されない (5063014) 11

Red Hat Linux Advanced Server 3.0 で SSL を使用する場合にシステムがハングアップすることがある (5084676) 12

「Plug-Ins」ページからファイルをインポートする際にエラーが発生する (5103015) 12

単純コンポーネントの全バージョンを一括して削除できない (6173519) 12

通知規則のためにプランの実行速度が遅くなることがある (6176243) 13

Master Server API の中にはアクセス許可を確認しないものがある (6199565) 13

バックアップと復元で Master Server パスが異なると復元が失敗する (6201207) 13

Windows 2000 プラグインに関連する問題	14
デフォルト値だけしか持たないレジストリキーリソースは削除できない (5061644)	14
Microsoft の IIS を変更したあとで既定値に戻しても、相違があると報告される (6189034)	14
Windows IIS アプリケーションをアンインストールできない (6197564)	14
BEA WebLogic プラグインに関連する問題	14
EJB コンポーネントがアンインストールされない (5109783)	14
WebLogic Console から WebLogic アプリケーションを削除した場合、スナップショットエラーを表示して比較が失敗する (6186456)	15
比較で、配備されていないコンポーネントについての相違が報告されない (6186457)	15
オンディスクの WebLogic アプリケーションアーカイブの内容変更が比較結果に反映されない (6196108)	15
Service Pack 3 以降を使用している管理対象サーバーに WebLogic EAR コンポーネントを配備できない (6200140)	16
WebLogic 管理サーバーとの SSL 接続がサポートされない (6203385)	16
各国語化の問題	16
ロケール固有のソートがサポートされない	16
2 ソフトウェアサポートの終了	17
現在のリリース	17
Web ブラウザ	17
オペレーティングシステム	17
今後のリリース	17
universal ユーザーグループ	18

はじめに

この『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 リリースノート』では、N1™ Grid Service Provisioning System 5.0 のリリース直前までに判明しなかったさまざまな情報 (インストール関連の問題など) を記載しています。

対象読者

このリリースノートは、N1 Grid Service Provisioning System 5.0 をインストールして使用するユーザーやシステム管理者を対象にしています。

関連マニュアル

N1 Grid Service Provisioning System 5.0 をインストールする場合や実際に使用する場合には、必要に応じて次のマニュアルを参照してください。

- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 インストールガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 プランとコンポーネントの開発者ガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 XML スキーマリファレンスガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 コマンド行インタフェース (CLI) リファレンスマニュアル』

これらのマニュアルの日本語版は、docs.sun.com Web サイト (<http://docs.sun.com/coll/1139.2?l=ja>) を参照してください。

Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、<http://docs.sun.com> です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

第 1 章

N1 Grid Service Provisioning System 5.0 の問題

この章では、すでに判明している N1 Grid Service Provisioning System 5.0 の問題について説明します。

- 9 ページの「インストールに関する情報」
- 10 ページの「アンインストールの問題点」
- 11 ページの「実行時の問題」
- 14 ページの「Windows 2000 プラグインに関連する問題」
- 14 ページの「BEA WebLogic プラグインに関連する問題」
- 16 ページの「各国語化の問題」

インストールに関する情報

この節では、インストールに関連する既知の問題について説明します。

サポートされていないオペレーティングシステムでも **Master Server** のインストールを実施できる **(6204115)**

Red Hat Linux Advanced Server 3.0 環境での N1 Grid Service Provisioning System 5.0 の使用はサポートされていません。しかし、Master Server のインストールプログラムを使用して Red Hat Linux Advanced Server 3.0 上に Master Server をインストールすることは可能です。

対処方法: Red Hat Linux Advanced Server 3.0 上には N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Master Server をインストールしないでください。サポートされていないオペレーティングシステムにこのプロビジョニングシステムをインストールすると、不確かな動作や予期しない動作が発生することがあります。

ローカルゾーンが設定された **Solaris 10** サーバーでは **CLI Client** のインストールが失敗することがある **(6209280)**

Solaris 10 ローカルゾーンが存在する Solaris 10 サーバーで CLI Client のインストールを試みると、インストールが失敗することがあります。この場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
pkginstall: ERROR: unable to create package object
</N1SP5.0-home/cli>.
```

```
pathname does not exist
group name <group> not found in group table(s)
owner name <user> not found in passwd table(s)
```

```
Installation of <SUNWspocl> on zone <xxxx> partially failed.
Error! Failed to install SUNWspocl. Exit value was 2
Exiting..
```

インストールが失敗するのは、このプロビジョニングシステムのインストールプログラムがローカルゾーンではなくグローバルゾーンに *N1SPS5.0-home/cli* ディレクトリを作成するためです。インストールは、このプロビジョニングシステムの所有者として作成されたユーザーとグループがネームサービスの対象となっていない場合も失敗します。

対処方法: CLI Client インストールの失敗を防ぐには、インストールを開始する前に次の操作を行います。

- ローカルゾーンに *N1SPS5.0-home/cli* ディレクトリを作成します。
N1SPS5.0-home は、N1 Grid Service Provisioning System をインストールする予定のホームディレクトリです。
- ユーザーとグループがネームサービスの対象となっていない場合は、グローバルゾーンとすべてのローカルゾーンに N1 Grid Service Provisioning System を所有するユーザーとグループを作成します。

アンインストールの問題点

このセクションでは、アンインストールに関連する既知の問題について説明します。

Windows Master Server の side-by-side アップグレード後、アンインストールが失敗する (6188943)

Windows Master Server の side-by-side アップグレードを行い、即座にアンインストールを試みると、アンインストールは失敗します。アンインストールを確実に行うには、手動の介入とリポートが必要な場合があります。

対処方法: Master Server のアンインストールを行う前に、Windows コントロールパネルの Services アプリケーションで Master Server サービスを停止してください。アンインストールが完了した時点では、Master Server サービスはまだ残っています。マシンをリポートし、Windows コントロールパネルの Services アプリケーションから Master Server サービスのエントリを削除してください。

アンインストールウィンドウに N1 Service Provisioning System 4.1 が表示される (6189043)

N1 Grid Service Provisioning System 4.1 Windows バージョンの Local Distributor または Remote Agent を N1 Grid Service Provisioning System 5.0 バージョンにアップグレードしたあとでその Local Distributor または Remote Agent をアンインストールすると、アンインストールウィンドウのタイトルとして N1 Service Provisioning System 4.1 が表示されます。

対処方法: アンインストールプログラムは正常に動作しています。タイトルの不正表示は無視してください。

ローカルゾーンが設定された **Solaris 10** サーバーでは **CLI Client** のアンインストールが失敗する (**6194834**)

ローカル Solaris 10 ゾーンが 1 つ存在する Solaris 10 サーバーでは、`cr_uninstall.sh` スクリプトを使用して CLI Client のアンインストールを試みると、アンインストール処理は失敗します。ログファイルに次のエラーメッセージが記録されます。

```
N1 Grid SPS Uninstaller Log.  
Uninstall started on Fri Nov 12 10:51:36 PST 2004  
  Attempting to remove:  SUNWspsc1 SUNWspsc1  
pkgrm: ERROR: cannot use -A option when non-global zones exist  
pkgrm: ERROR: cannot use -A option when non-global zones exist
```

対処方法: CLI Client をアンインストールするには、次の操作を行います。

1. スーパーユーザー (root) になります。

```
% su root
```

2. -A オプションを指定せずに `pkgrm` コマンドを実行し、手動で `SUNWspsc1`、`SUNWspsc1`、`SUNWspsj1` パッケージを削除します。

```
# pkgrm SUNWspsc1 SUNWspsc1 SUNWspsj1
```

実行時の問題

この節では、判明している実行時の問題について説明します。

「**Check In Current**」処理で、この処理をサポートしないコンポーネントについてのエラーが報告されない (**5063014**)

「**Check In Current**」処理を使用することで、ユーザーは Master Server リポジトリ内のコンポーネントのバージョンを最新状態に維持できます。Master Server は、ソースホスト上のバージョンに照らしてそのコンポーネントのバージョンを確認します。この確認は、前回のチェックイン時に収集されたコンポーネント位置についてのメタデータに基づいて行われます。

「**Check In Current**」処理は、すべてのコンポーネントタイプに対して行えるわけではありません。一般に、ブラウザインタフェースを使用してブラウズできるコンポーネントタイプは「**Check In Current**」処理が行えます。

「**Check In Current**」処理をまとめて行う場合、「**Check In Current**」処理をサポートしないコンポーネントタイプを選択すると、エラーが表示されないまま処理が完了します。サポートされていないコンポーネントタイプについては、「**Progress**」ダイアログボックスに結果が何も表示されないこともあれば、履歴データとして現れることもあります。

対処方法: 対応策はありません。

Red Hat Linux Advanced Server 3.0 で SSL を使用する場合にシステムがハングアップすることがある (5084676)

N1 Grid Service Provisioning System を Red Hat Linux Advanced Server 3.0 で稼働させている場合、Secure Socket Layer (SSL) 接続を使用するとシステムがハングアップすることがあります。

SSL は、`/dev/random` を使用して乱数を生成する `SecureRandom` を使用します。Red Hat Linux Advanced Server 3.0 には、`/dev/random` のエントロピ収集を妨げるというバグがあります。十分なエントロピが収集されないと `/dev/random` は乱数を生成しないため、`/dev/random` からランダムデータを読み取ろうとしてアプリケーションはハングアップします。

対処方法: 次に示す対応策の中から、どれか 1 つを選択してください。

- Red Hat プランに Update 3 のパッチを含めて、この問題を修正する。Red Hat のパッチが提供された時点で、パッチをシステムに適用します。Red Hat パッチの詳細は、
http://bugzilla.redhat.com/bugzilla/show_bug.cgi?id=117218 を参照してください。
- 接続タイプとして SSL を使用せず、TCP/IP または SSH を選択する。
- `/dev/random` を削除し、代わりに `/dev/urandom` に対するシンボリックリンクを使用する。`/dev/urandom` は `/dev/random` よりも安全性に劣りますが、Red Hat Linux Advanced Server 3.0 上でプロビジョニングシステムが SSL 接続を試み際にシステムのハングアップは発生しません。

「Plug-Ins」ページからファイルをインポートする際にエラーが発生する (5103015)

「Plug-Ins」ページのブラウザインタフェースから 40MB を超えるファイルのインポートを試みると、インポートは失敗します。

対処方法: 40MB を超えるプラグインファイルをインポートする場合は、CLI Client で `plg.p.add` コマンドを使用してください。手順については、『*N1 Grid Service Provisioning System 5.0 コマンド行インタフェース (CLI) リファレンスマニュアル*』の第 11 章「`plg`: プラグインの CLI コマンド」を参照してください。

単純コンポーネントの全バージョンを一括して削除できない (6173519)

ブラウザインタフェースを使用して新しいファイルコンポーネントを作成し、そのコンポーネントに対して「Check In Current」処理を実行してバージョン 1.1 を作成した場合、両方のコンポーネントバージョンを同時に削除しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
The 1.0 version of the object cannot be deleted as long as other versions of the same object exist.
```

対処方法: 2 つのコンポーネントをまとめて削除せず、別々に削除してください。

通知規則のためにプランの実行速度が遅くなることもある (6176243)

基準がわずかしかなかったか存在しないか、あるいはまったく基準が含まれない通知規則を作成すると、プランの実行速度が遅いように見えることがあります。プランの実行が遅いのではなく、プラン結果の表示が遅いという可能性があります。

対処方法: 通知規則を作成する場合は、できるだけ多くの基準を使用してください。通知規則の基準を増やすと、ネットワーク上でプロビジョニングシステムが送信する通知電子メールの数が減ります。通知電子メールの数が少なくなると、プラン結果の表示が妨げられる可能性が低くなります。

Master Server API の中にはアクセス許可を確認しないものがある (6199565)

Master Server 上で利用できる API の一部は、アクセス許可をまったくチェックしません。アクセス許可をチェックしない状態では、認証を受けていないユーザーがこれらのサービスを起動し、Master Server に害を及ぼす可能性があります。

対処方法: Master Server と CLI Client は、未承認アクセスを防止するように設定できます。Master Server と CLI Client では、次のセキュリティオプションを利用できません。

- SSL を使用して CLI Client に接続するように Master Server を構成する
- N1 Grid Service Provisioning System へのアクセスが許可されたユーザーしかアクセスできないサーバーに CLI Client をインストールする
- (Solaris OS、Red Hat Linux、IBM AIX サーバーの場合) 承認されたプロビジョニングシステムユーザーだけから構成されるユーザーグループ内に CLI Client をインストールする
- `N1SP5.0-CLI-home/cli/data/private.store` で、CLI Client プライベートキーストアのアクセス許可を 640 に設定する。このアクセス許可を設定すると、承認されたプロビジョニングシステムユーザーだけが CLI Client プライベートキーにアクセスし、Master Server への接続を確立できる状態となります。
- (Windows 2000 システムの場合) 承認されたプロビジョニングシステムユーザーだけに CLI Client プライベートキーストアの読み取り許可を与える

バックアップと復元で Master Server パスが異なると復元が失敗する (6201207)

バックアップファイルの作成に使用した Master Server パス以外のパスにインストールされた Master Server にデータを復元しようとする、その復元は失敗します。次のメッセージが表示されます。

```
ERROR! Failed to restore the database successfully.
The following fatal errors were encountered
ERROR: stat failed on file 'N1SP5.0-MS-home/': No such file or directory
```

`N1SP5.0-MS-home` は、バックアップファイルの作成に使用された Master Server のホームディレクトリです。

対処方法: Master Server データを復元するサーバーで、バックアップの作成に使用した Master Server と同じディレクトリに Master Server をもう一度インストールしてください。

Windows 2000 プラグインに関連する問題

この節では、Windows 2000 プラグインの既知の問題について説明します。

デフォルト値だけしか持たないレジストリキーリソースは削除できない (5061644)

タイプがレジストリキーである単一リソースを持つコンポーネントを作成できます (キャプチャするエントリは単一のデフォルト値となる)。しかし、付随するレジストリキーを指定せずにその値は配備できても、そのアンインストールや削除はできません。パスが無効であることを知らせるメッセージが表示されます。

対処方法: キャプチャするレジストリキーに含まれる値がデフォルト値のみにならないようにしてください (キーとデフォルト値を含めるなど)。

Microsoft の IIS を変更したあとで既定値に戻しても、相違があると報告される (6189034)

IIS 設定のスナップショットを含む「モデルとインストール」タイプの比較を行う場合、ターゲットサーバー上で IIS 設定をいったん変更し、そのあと元の値に戻すと、相違がまったくないにもかかわらず、比較結果に相違が報告されることがあります。特に、親ノードから継承されたメタベースプロパティ (Web サイトの読み取り / 書き込み許可やデフォルトのドキュメント設定など) ではこのような現象が発生しがちです。

対処方法: このようなケースで報告される相違は無視してください。

Windows IIS アプリケーションをアンインストールできない (6197564)

Windows IIS アプリケーションをアンインストールする場合、Master Server ブラウザインタフェースはアンインストールが正常に完了したというメッセージを表示します。しかし、COM+ アプリケーションは完全には削除されていません。COM+ アプリケーションは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」内に残ったままとなります。

対処方法: 残った COM+ アプリケーションを手動で削除してください。

この問題を防ぐには、アプリケーションのインストール時に shutdownDelaySecs 変数の値を増やしてください。

BEA WebLogic プラグインに関連する問題

この節では、WebLogic プラグインの既知の問題について説明します。

EJB コンポーネントがアンインストールされない (5109783)

WebLogic で管理された複数の仮想サーバーに配備されている EJB コンポーネントに対してデフォルトのアンインストール手続きを実行し、それらのサーバーの 1 つだけをアンインストールの対象として選択した場合、EJB コンポーネントがそのサーバーからアンインストールされたようには見えません。

しかし、アンインストール後、EJB をアンインストールした管理対象サーバーの WebLogic コンソール上のタブをクリックすると、EJB がもはや存在しないことが正しく報告されます。また、EJB タブをクリックすると、EJB がアンインストールされた管理対象サーバーでは現在 EJB は使用されていないことが報告されます。

しかし、EJB タブでは EJB がその管理対象サーバーに配備されていると報告されません。

管理対象であるすべてのサーバーから EJB をアンインストールすると、EJB は WebLogic コンソールから正しく除去されます。

対処方法: WebLogic プラグインは正常にアンインストールされています。不正表示は無視してください。

WebLogic Console から WebLogic アプリケーションを削除した場合、スナップショットエラーを表示して比較が失敗する (6186456)

WAR ファイルと Web アプリケーションの設定が登録されている Web アプリケーションコンテナを含む WebLogic Web アプリケーションを配備し、スナップショットを含め、その後 WebLogic Console から Web アプリケーションを削除した場合、Web アプリケーションコンポーネントについて「モデルとインストール」タイプの比較を行うと、次のエラーが表示されます。

```
Could not complete operation on webapp domain.  
No such webapp exists on domain /domain/. (310101)
```

この比較では、モデルと、サーバーに実際にインストールされているものの相違が報告されるべきですが、比較は失敗に終わります。

対処方法: 対応策はありません。

比較で、配備されていないコンポーネントについての相違が報告されない (6186457)

管理対象サーバーまたはクラスタに配備されている WebLogic WAR または EJB コンポーネントを WebLogic Console を使用して削除しても、WebLogic Console にはその管理対象サーバーまたはクラスタで WAR または EJB コンポーネントがまだ使用されていると報告されます。このため、管理対象サーバーまたはクラスタの「モデルとインストール」タイプの比較を行っても、相違が報告されません。「モデルとインストール」タイプの比較では、WebLogic Console がチェックされるため、使用中のアプリケーション (ターゲットとされたアプリケーション) は配備されているものとして報告されます。

対処方法: 対応策はありません。

オンディスクの WebLogic アプリケーションアーカイブの内容変更が比較結果に反映されない (6196108)

N1 Grid Service Provisioning System 5.0 を使用して WebLogic アプリケーションをインストールし、その後管理サーバー上のオンディスク WAR アーカイブの内容を変更した場合、比較結果にこの変更が報告されません。構成に変更を加えた場合には、この問題は発生しません。

対処方法: 拡張機能である generate と prepare を使用することで、比較作業をカスタマイズし、比較を実際に行う前にオンディスクアーカイブをあらかじめ処理することができます。このようなカスタマイズは、高度なスクリプト処理が必要になることがあります。

Service Pack 3 以降を使用している管理対象サーバーに WebLogic EAR コンポーネントを配備できない (6200140)

WebLogic 7.0 Service Pack 3 以降を使用している場合、WebLogic EAR コンポーネントを配備できません。EAR コンポーネントを配備しようとする、次のメッセージが表示されます。

```
Execution ended abnormally. (025075)
```

対処方法: 対応策はありません。

WebLogic 管理サーバーとの SSL 接続がサポートされない (6203385)

N1 Grid Service Provisioning System 5.0 で WebLogic 管理サーバーを設定する際に「Secure」チェックボックスをクリックすると、SSL 使用した接続の設定が試みられます。この選択では、WebLogic 管理サーバーへのアクセスを要求する操作を試みるとエラーが発生します。

対処方法: WebLogic 管理サーバーとの接続は、SSL 接続を要求するように設定してください。「Secure」チェックボックスは選択しないでください。

各国語化の問題

この節では、英語ロケール以外で N1 Grid Service Provisioning System 5.0 を使用する際に発生する問題について説明します。

ロケール固有のソートがサポートされない

N1 Grid Service Provisioning System 内の文字ベースのデータは、標準の辞書目録を使用してソートされます。ロケール固有の照合はなされません。したがって、アクセント記号付きの文字は、同文字のアクセント記号なしのものと同じ場所には表示されません。

第 2 章

ソフトウェアサポートの終了

この章では、サポートが終了したソフトウェアを示します。

- 17 ページの「現在のリリース」
- 17 ページの「今後のリリース」

現在のリリース

次の機能は、N1 Grid Service Provisioning System 5.0 で現在サポートされていません。

Web ブラウザ

Internet Explorer 5.5 は、現在 N1 Grid Service Provisioning System 5.0 でサポートされていません。

オペレーティングシステム

次のオペレーティングシステムは、現在 Master Server でサポートされていません。

- Red Hat Linux 7.2、7.3、8.0

次のオペレーティングシステムは、現在 Remote Agent、Local Distributor、CLI Client でサポートされていません。

- Solaris 2.6 OS
- Red Hat Linux 7.2、7.3、8.0
- AIX 4.3.3

今後のリリース

次の機能は、N1 Grid Service Provisioning System の今後のリリースではサポートされなくなる可能性があります。

universal ユーザーグループ

universal ユーザーグループは、N1 Grid Service Provisioning System の今後のリリースではサポートされなくなる可能性があります。registered ユーザーグループを使用すれば、同等の機能が得られます。registered ユーザーグループの詳細は、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』の「registered ユーザーグループ」を参照してください。